

平成26年度

学校教育法109条第1項に基づく自己点検・評価

平成27年6月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設 10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格 昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止) 24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格 平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立 22年(2010)4月 口腔保健学科を創設 26年(2014)5月 創立百周年記念式典を開催</p>

法人の目標

公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。

1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。
 - ・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・適性のある優秀な人材の確保・育成
 - ・教育の質の改善
 - ・学生への支援
2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。
 - ・研究水準並びに研究成果の向上
3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。
 - ・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施
4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。
 - ・運営体制の改善
 - ・人事の適正化
5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。
 - ・自己収入の増加
 - ・経費の抑制
 - ・附属病院経営の改善
6. 評価及び情報公開: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。
 - ・評価の充実
 - ・情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員の内任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	元 米国安川電機 取締役会長
常務理事(事務局長)	亀川 正知	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	國武 豊喜	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州産業学術推進機構 理事長
理事(学外)	利島 康司	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州商工会議所 会頭
理事(学内)	柿木 保明	平成25年4月1日～平成27年3月31日	附属病院長・副学長 (老年障害者歯科学分野教授)
理事(学内)	鱒見 進一	平成24年4月1日～平成27年3月31日	附属図書館長・副学長 (顎口腔欠損再構築学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	廣瀬公認会計士事務所 所長
監事	服部 弘昭	平成26年4月1日～平成28年3月31日	ナリツジ共同法律事務所 弁護士

(2) 教員

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
教員数	常勤(正規)	116人	120人	120人	120人	121人	121人	
	内訳	教授	22人	25人	26人	26人	27人	27人
		助教授	—	—	—	—	—	—
		准教授	16人	18人	20人	19人	21人	21人
		講師	14人	10人	8人	8人	12人	11人
		助教	64人	67人	66人	67人	61人	65人
		助手	—	—	—	—	—	—
	非常勤講師	135人	144人	173人	196人	203人	224人	
合計	251人	264人	293人	316人	324人	345人		

教員数増減の主な理由

授業コマ数の増などにより非常勤講師が増加している。

(3)職員			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	41人	38人	36人	33人	31人	24人
		プロパー	18人	24人	24人	32人	37人	51人
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人
		その他	人	人	人	人	人	人
		計	59人	62人	60人	65人	68人	75人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	55人	54人	61人	61人	70人	55人	
合計	115人	117人	122人	127人	139人	131人		

職員数増減の主な理由

プロパー職員(事務職・技術職)の採用に伴い、県派遣職員(事務職)及び嘱託職員(技術職)が減少している。

(4)法人の組織構成

歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局

3. 学生に関する情報

関連する 学部・大学	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
大学	計	776人	752人	95%	94	96	94	94	96	95
内訳	歯学部	670人	673人	100%	100	100	99	99	102	100
	歯学科	570人	575人	101%	100	99	99	99	102	101
	口腔保健学科	100人	98人	98%		100	100	100	99	98
	大学院 歯学研究科	106名	79人	75%	70	79	72	65	63	75

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

歯学部歯学科: 年度途中で退学した学生がいたことによるもの。

大学院: 大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていることによるもの。

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 理事長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 副理事長
学外委員	石束 隆男	平成26年4月1日～平成28年3月31日	製鉄記念八幡病院 理事長
	大川 博己	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州市産業経済局 担当理事
	木瀬 照雄	平成26年4月1日～平成28年3月31日	TOTO(株) 取締役相談役
	田中 靖人	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立小倉高等学校 校長
	芳賀 晟壽	平成26年4月1日～平成28年3月31日	(社福)年長者の里 理事長
	長谷 宏一	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県歯科医師会 会長
	松延 彰友	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学同窓会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	細川 隆司	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 歯学部長
学内組織の長	柿木 保明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 附属病院長、副学長
	亀川 正知	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	自見 英治郎	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長
	鱒見 進一	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長、副学長

法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
<p>I 全体</p> <p>本学は、全国唯一の公立歯科大学であるという特色を活かし、生涯に渡って研鑽を重ね、実社会に貢献する優秀な歯科医療人を育成することを重要視し、特色のある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。 この実現に向け、理事長の強いリーダーシップのもと、それぞれの組織、役職の役割を明確にするとともに、主体的、自立的な大学運営を進めるガバナンス体制を整備し、経営者の立場に立った適正な財政運営、厳正な評価の実施、積極的な情報公開等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。</p> <p>II 中期目標項目別</p> <p>1 教育</p> <p>初年次教育から登院実習までの一連の教育を充実させるために、歯科基礎・臨床医学教育、及び診療参加型臨床実習の連続的な歯学教育カリキュラムの改善を図った。 また、FD活動にて、先進的な教育手法であるアウトカム基盤型教育に関するテーマを導入するため、国内外から有識者を招き、講演を依頼し、新しい教育カリキュラム導入に関する教員の意識を深めた。 高度な専門性を持った歯科医療人の育成という歯科大学の理念に基づいた取組を進め、歯科医師国家試験、歯科衛生士国家試験の両試験において高い合格率を収めるよう努め、歯科医師国家試験においては現役合格率5位以内、歯科衛生士国家試験においては全員の合格という目標を達成した。 大学間連携共同事業において、4大学間単位互換協定により連携授業科目の開講および学生の相互受け入れを開始した。 受験生に向けた広報活動において、ホームページの内容の充実、模擬講義の実施回数の増加、大学施設見学会の実施などで前年度より内容の充実を図ったことで、優れた資質・高い意欲を持った学生を確保することができた。 学生支援の面においては、就職支援会議を充実させ、学長主導で組織的に対応したことで、口腔保健学科2期生においても就職率100%を達成することができた。</p> <p>2 研究</p> <p>学長重点研究費において、平成26年度も国際会議である第3回Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2015を開催した。タイ、オーストラリアから歯学部長を講師として招き、活発な意見交換が行われた。3回目となる今回から、本学大学院生の研究活動の中で優れた研究を行っている大学院生の表彰を行った。 本学の研究成果を知的財産の観点から検証する発明委員会を3回開催し、研究成果の社会の活用に努めた。 外部資金については、昨年度より多くの科学研究費を獲得するとともに採択率においても、全国6位となった。 医歯工学連携においては、獲得した文部科学省補助金事業を活用し、今年度も国際シンポジウムや特別講演を継続して開催して、学際領域の教育研究の拡大という視点で、教職員の意識を向上させた。</p> <p>3 社会貢献</p> <p>地域社会への貢献に関しては、公開講座等を9回実施し、地域住民に研究成果等の有用な情報発信を行った。とくに医歯工連携の成果を発信するために今年度初めて開催した市民公開シンポジウムにおいては、150名にのぼる参加者があり、地域住民から高い支持を得た。また、地域住民の健康増進のために、大学近隣の保育園、幼稚園、老人クラブにおいての講演や口の悩みに対する相談にも積極的に取り組んだ。 国際交流に関しては、今年度短期海外派遣プログラムを展開し、トライアルとして2ヶ国に学生を派遣した。また、タイのランシット大学と新たに学術交流協定を結んだ。さらに、ミャンマーの保健省と歯科保健活動における正式な連携協定を結ぶなど、歯科保健医療においても新たな展開が開けた。</p>	

4 業務運営

業務運営については、理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善に努めた。特に本年度は、学校基本法等の一部改正に伴い、副学長および教授会の役割を明確にした。

3年目を迎えた企画広報班は、中期計画に係る進捗管理や責任体制の明確化、百周年事業に関連した新聞広告情報の発信、学校教育法等改正による学則等の改正において大きな役割を果たした。

プロパー職員については、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据えて、新規職員の確保および計画的な人事異動および職員研修を行った。

県立3大学の事務処理の共有化、効率化という課題に関しては、今年度も3大学合同で法人職員採用試験を実施し、効果的な事務処理を図ることができた。

附属病院については、診療体制の充実に向けて、スタッフの補充、組織の見直しおよび業務改善を行った。また、地域包括型歯科医療連携体制の構築のため、各種セミナー、研修会、意見交換を行った。

5 財務

外部研究資金については、昨年度の件数を大きく上回り、今年度の科学研究費の採択率は全国2位となった。

附属病院については、先進医療1件の申請を継続して行うとともに、来年度新たな先進医療の申請に向けてさらなる症例を蓄積した。介護病棟の入院患者への歯科訪問診療や訪問口腔衛生指導を積極的に行うことによって収入増を図った。また、紹介患者データベースシステムを構築したこと、地域との歯科医療機関との連携をさらに強化することができた。

6 評価及び情報公開

評価については、次期認証評価に向け、継続的に自己評価を行うとともに、業務評価の結果を適切にフィードバックし、評価結果が低かった項目については、関連する教職員および附属病院職員が一丸となり改善を図った。なお、平成26年度第37回理事会において、学長の業績評価を行うことが決定され、平成27年度からの実施に向けて準備を開始した。

情報公開については、昨年度整備したUIマニュアルを積極的に運用し、駅広告やポスター、新聞広告など多くの人が目にする広告媒体を活用し、本学のPR活動を充実させた。また、製作したDVDを高校への大学説明で使用したり、連携企業、海外連携校へ配布するなど活用した。今年度創立百周年を迎えたことを機会に創立記念式典を開催し、当日の様態を新聞各社、テレビ等を通じて情報発信を行った。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する」

学長主導による歯学教育センターを立ち上げ、歯科医療人としての自覚を涵養し、実践的な臨床能力の体得ができるようなカリキュラムの構築を行うことを理事会決定した。また、本年度から、プロセス基盤型からアウトカム基盤型教育への転換に向けた作業を開始し、FD等で教職員全体の認識を高めた。このような教育の改革を進め、プロフェッションとしての歯科医療人の輩出につながる活動を加速させた。

「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」

地域歯科医療の中核病院としての機能を十分発揮できるよう、紹介患者データベース等のシステムの整理を行い、診療機関への情報提供や医療連携等をより一層推進した。また、要介護高齢者に対する適切な歯科診療を提供できる体制を構築し、介護病棟を有する病院の入院患者に対して歯科訪問診療、口腔衛生指導を積極的に行った。さらに、今年度高齢者介護施設を展開する(株)ウチヤマホールディングスとその事業展開を支援する(公財)北九州産業学術振興機構との3者で提携を結び、介護施設へ訪問し口腔ケア事業を行うなど、新たな保健医療活動を開始した。

「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」

県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていけるよう、プロパー職員を全ての班に配置した。SDの実施や外部研修へ積極的に派遣するだけでなく、計画的な人事異動を行うことで職員の育成を図った。また、次年度に向けて、新たな職の設置や給与制度の見直しを検討した。

「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」

今年度本学が創立百周年を迎えたことを機会に、創立記念式典をはじめさまざまなイベントを展開した。新聞やテレビ等のメディアを通じて、広く本学のPRを行った。昨年度制定したUIマニュアルを活用し、広報物等での統一した情報発信を通じて、ブランドイメージの定着を図った。さらに、アジアおよび欧米の歯科大学、歯学部との教育連携などを通じて、諸外国に向けて積極的な情報発信を行った。

年度計画項目別評価

中期目標 1. 教育	「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」 (1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。 (2)教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。 (3)意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。 (4)学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。
---------------	--

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
1. 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 1. 授業要綱の検証と改善 2. 成績評価基準の明確化 3. 教育の効果・成果の検証	1【初年次教育の改編・充実】 ①初年次教育で、歯科医療人としての職務を体験させ、プロフェッショナルとしての自覚を高めるような教育カリキュラムを作成する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1-1【平成26年度計画】 ○平成25年度より開始した早期登院実習カリキュラム(早期クリニカル・エクスポージャーとしての附属病院における見学実習および相互実習等)を検証する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1	【平成26年度の実施状況】 ○平成25年度より開始した早期登院実習カリキュラムを検証し、実習内容をより充実するために、平成26年度理事会にて歯学教育センターを設置することを決定した。そこで、歯学教育全般の改編を遅滞なく進める組織づくりを行い、平成27年度から活動を開始することとした。さらに、本年度は1年前倒しで、クリニカルクラークシップ学分野教授を採用し、早期登院実習カリキュラムを作成した。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA2.3(満点4)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		1	
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
	【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
	【ウェイトの修正の有無】								
	年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
	24								
	25								
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	【専門課程における教育カリキュラムの検証と充実】 ①歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心に歯学科カリキュラムを充実させ、実践的歯科医師育成を推進する。 ②1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムを検証する。 ③チーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開講し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムを編成する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA 2.5以上(満点4)	2-1 【平成26年度計画】 ○歯学科において、改編した臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育の充実を図るとともに、より質の高い科目の増加を検討する。また、臨床実習修了時の学生の能力評価トライアルを実施する。 ○口腔保健学科学生の基礎臨床能力の充実を目指した附属病院における臨床実習を検証する。 ○平成25年度に充実させた歯学科と口腔保健学科の連携カリキュラムを検証する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA2.5以上(満点4)	2	【平成26年度の実施状況】 ○附属病院における診療参加型臨床実習修了時の学生の臨床能力評価トライアルを行い、そこで得られたデータをもとに臨床基礎実習を改編した。 ・3、4年次の臨床基礎実習として行ってきた保存学中心の「シナリオベース実習」に他科目(インプラント学、部分欠損補綴治療学、歯周病学、小児歯科学等)を導入した。 ・3、4、5年次の講義に、ICT教育手法として用いられはじめたクリックカー法(参加型授業、双方向授業に活用できる機能を有した無料のオンラインサービス)などを用いた参加型・対話型授業を取り入れた。 ・5年次の実習として、実際の臨床実習で頻度の高い技術を対象とした「スキルアップ実習」の学修項目を増やし、病院における登院実習でより効果的な教育ができるよう工夫した。 ・6年次臨床実習における自験症例において、ICTを活用した電子ケース表の運用を開始した。 ・6年次臨床実習終了時に臨床能力修得状況の評価するため「臨床実習終了時能力検定試験」を継続実施し、試験結果をもとに能力が到達していない6年次についてはスキルアップ実習を追加するプログラムを構築した。 ○口腔保健学科学生が附属病院実習を行おうとしたとき、受け入れ先である附属病院の歯科衛生士が不足していることが明らかとなったため、歯科衛生士の増員を含めて、教育という視点で病院組織体制作りを附属病院長に指示した。 ・これまでの歯学科、口腔保健学科の附属病院実習の連携が不十分であることが明らかとなり、両学科の教員が一体となって歯科医師、歯科衛生士の連携型教育プログラムを見直し、次年度に向けて、充実した教育連携カリキュラム作成を指示した。 ○目標実績・学生の成績:平均GPA2.3(満点4)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		2
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3	【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】 ①モデル・コア・カリキュラム改訂にあわせた各教科の到達目標と成績評価基準を授業要綱に明示する。 ②厳格な成績評価を行う。	3-1 【平成26年度計画】 ○平成25年度に実施した授業要綱に関するアンケート調査等を分析し、記載事項を検証する。 ○これまでの成績開示、学生・保護者説明会の開催等引き続き実施していくとともに、成績不振者のフォローアップ調査を行い、効果を検証する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○シラバスに達成目標と成績評価基準を明示したことから、アンケート調査での評価で、概ね良好な結果が得られた。一方で、学生からの開講時間の明示や成績評価方法等具体的な要望があり、これに対しては速やかに改善した。 ○学生が作成した学習行動計画を年度毎に検証するシステムの構築した。成績表の保護者への送付と保護者説明会を引き続き開催した。 ・両学科教務部会で学生の成績を詳細に検証し、学修方法などについて学生と保護者を交えた説明会を行い、学習状況の改善を図った。 ・今年度の歯学科成績不振者は23名にとどまり、昨年度の31名に比べて減少傾向が認められた。 ・成績不振者のフォローアップ調査を行い、成績不振の続くものについては、学年主任による教育指導を継続することとした。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
4	【教育の成果・効果の検証】 ①歯学科は、共用試験 Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CBT)を教育効果という視点で活用する。 ②入学試験、定期試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、両学科とも国家試験の高い合格率の維持を目指すとともに、入学試験方法の改善を図る。 ③卒業試験に臨床実習試験制度を導入する。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験:共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で常にトップクラスを目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率:歯科衛生士国家試験 100%(新卒受験者)	4-1 【平成26年度計画】 ○歯学科は、共用試験のデータを解析し4年次生までの講義・実習の充実を継続する。 ・成績不振の学生に対しては、教員によるチューター制度を活用して不得意科目の克服を図るとともに、担当教員の指導方法を検証する。 ・国家試験終了後、事務局の学務管理システムと連携し直ちに解答分析結果と各学年における成績との関連性を教務部会で分析し、カリキュラム改編につなげる。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連の分析(入学時の成績、定期試験の進級に伴う変化、定期試験と共用試験の相関、共用試験と国家試験との相関の分析)を継続して実施するとともに、分析結果を検証し、カリキュラム改編につなげる。 ○6年生後期の臨床実習終了時における臨床能力評価試験結果を検証する。 ○卒業試験の試験問題を教務部会で組織的に検証し、卒業試験問題の質を向上させる。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験 : 共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率 : 全国29大学の中で5位以内を目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率 : 100%	1	【平成26年度の実施状況】 ○歯学科は、共用試験結果の解析データから臨床推論(診査データをもとに疾患を推測し確定診断から治療方針に至る論理プロセス)に関する知識が不足していることが分かり、診断、治療、予防について、横断的に考える能力の養成が可能な科目編成を進めた。 ・適切なチューターを配置することにより、成績不振の学生の成績が向上したため、そこで行われた教育方法を教員間で共有した。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、今後のカリキュラム再編につなげる議論を開始した。 ○今年度も継続的な分析を行い、以下のような改善を行った。 ・入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった試験結果の関連を分析し、結果をFDを通じて全教員に周知し、全学的な学生教育体制の向上につなげた。 ・共用試験CBTの合格基準引き上げについて検討を開始した。 ○臨床実習終了時に学生の臨床能力評価試験を実施した。 ・附属病院における学生実習を全般的に管理運営するために、クリニカルクラークシップ学教授を採用した。 ○卒業試験問題の検証を行い、卒業試験の質を向上させ、より質の高い卒業試験問題で卒業試験が行えるようになった。 ・教務部会において、各科目責任者が作成した試験問題について、試験前後に詳細な検討を行った。 ○目標実績 ・(歯学科)共用試験:共用試験合格率:CBT99%、OSCE 100% ・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で4位(新卒)、7位(総合) ・(口腔保健学科)国家試験合格率:100%	A	【高く評価する点】 ○国家試験対策を学部全体で取り組み、歯科医師国家試験および歯科衛生士国家試験とともに、好成績を収めた。 【実施(達成)できなかった点】	No.8「資格試験合格率、免許の取得」	4		
(評価委員会)										
【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
2. 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成 1. 授業要綱の充実と改善 2. 大学院指導の客観的評価 3. 学位審査方法の検証	1【大学院教育組織の検証と適正な運用】 ①大学院カリキュラムを定期的に検証し、高度歯科医療人育成に向けて体系的な教育プログラムを構築する。 ②学位審査方法及び募集定員を検証し、質の高い教育・研究者の育成を目指す。 ③臨床系大学院指導の客観的評価法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA3以上	1-1【平成26年度計画】 ○新たに設置した口腔保健学専攻(修士課程)もあわせて、大学院教育組織を検証し、歯学研究科大学院教育カリキュラムを体系化する。 ○准教授・講師を学位審査の副査に登用した効果を検証する。 ○過去3年間の定員充足率を検証し、是正を図る。 ○昨年度行った評価方法の有効性を検証する。 ○達成目標 ・学生の成績 : 平均GPA3以上(満点4)	1	【平成26年度の実施状況】 ○歯学専攻教授4名および口腔保健学専攻教授4名で構成される各専攻教務部会でシラバスの内容を精査し、学生がより講義・実習内容を理解しやすい様に記載方法を改善した。 ・各専攻教務部会で検討した案件を歯学専攻教授および口腔保健学専攻教授で構成される歯学研究科委員会で審議し、ディプロマポリシーに基づき、「学習成果」を念頭に、大学院教育カリキュラムを体系化した。 ○昨年度に引き続き准教授・講師を学位審査の副査に登用した結果、より専門性と質の高い学位審査を行うことができた。学位審査21件中8件で准教授、2件で講師が副査を務めた。 ○過去5年間の大学院博士課程の充足率が70%を下回ったことから、平成26年度から定数を30名から25名に変更した。 ○臨床系大学院生の臨床症例数および臨床研究の発表数を分野長が精査したところ、昨年度決めた臨床症例数および臨床研究の発表数が妥当であるという結論に達した。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA3.1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		5									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
2	【歯科保健医療に貢献する教員・研究者の育成】 ①豊かな科学性と倫理性を備えた人材を育成するために口腔保健学科に大学院を設置する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	2-1	【平成26年度計画】 ○口腔保健学専攻(修士課程)の学生数を充足する。 ○学位認定に係る基準を決定する。 ○口腔保健学専攻(博士課程)の在り方を検討する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	1	【平成26年度の実施状況】 ○修士課程定員:1学年3名 平成26年度受験者数:4名、合格者数:3名 ○学位認定の審査は、主査1名、副査2名により、学位論文の内容と最終試験(口頭発表による研究内容のプレゼンテーション)の審査により行い、そこでは、研究結果に対する貢献度、研究内容の理解度、研究内容が口腔保健学の発展に資するかの観点から審査を行うこととした。 ○博士課程の設置については、口腔保健学専攻単独の博士課程を設置するだけの学生数が臨めないと判断した。そこで、歯学研究科の博士課程があることから、それを活用する方略について引き続き検討することとした。 ○目標実績 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%(3/3名)	A	【高く評価する点】 ○口腔保健学専攻(修士課程)に、定員を超える受験生を得ることができ、優秀な学生に対する教育を開始することができた。さらに、博士課程への方略について、ほぼ決定するレベルまで議論を重ね、方向性を示すことができるようになった。 【実施(達成)できなかった点】		6								
										(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
										【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
										【ウェイトの修正の有無】							
										年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
										24							
										25							
26																	
27																	
28																	
29																	

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
3	【歯工学連携大学院の充実】 ①歯工学連携の充実を図り、大学院教育のカリキュラムを改編する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者:10名以上(年間) ・論文数:英文誌5件(年間) ・特許保有件数:1件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	3-1 【平成26年度計画】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価する。 ○歯工学連携大学院に係る研究費配分による実績を検証する。 ○大学間連携共同教育推進事業で単位互換制度を実施する。 ○大学間連携共同教育推進事業において、4大学間で単位互換を伴う大学院科目を実施する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者 : 10名以上(年間) ・論文数 : 英文誌5件(年間) ・特許保有件数 : 1件	2	【平成26年度の実施状況】 ○現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価し、受講者のいない科目を2科目削除し、新たな科目を4科目付け加えた。 ○歯工学連携に関連する研究成果が24報の学術論文として発表されており、研究成果は十分上がっていると判断し、医歯工学連携教育体系の基盤が確立した。 ○大学間連携共同事業において、4大学連携による大学院での特別講演会を4件実施した。 ○4大学間で単位互換を伴う10科目(うち4科目が本学開講分)の大学院科目を実施した。 ○4大学間で62名(本学10名、九工大11名、北九大41名、産業医大0名)の相互単位認定者を認定した(内、本学開講講義受講者九工大10名、北九大21名)。 ○目標実績 ・大学院連携による相互単位認定者 : 10名 ・論文数 : 英文誌5件(年間) ・特許保有件数 : 1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」	7		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
3. 教員の教育力の向上 1. 教育実施体制の検証・改善 2. 評価方法の検証・改善と適切な運用	1 【FDによる創造的授業開発の推進】 ①FD活動を充実させ、学部および大学院における教育活動の改善につなげる。 ②FD活動の有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD参加率およびアンケート調査:参加率95%、平均4点以上(満点5)	1-1 【平成26年度計画】 ○学部長のもとに設置されたFD委員会では、教員の教育に対する意識向上を意識したFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・FD活動の内容に応じて、有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD活動の教員の参加率 : 各回95%以上 ・アンケート調査:平均4点以上(満点5)	1	【平成26年度の実施状況】 ○平成26年度は、アウトカム基盤型教育に関するテーマでFDを開催し、国内外から講演者を招き、新しい教育カリキュラム導入に関する教員の認識を深めた。 ○昨年度に続いて「入試/国試 試験結果の解析報告」というテーマのFDを開催し、本学における入学試験を検証するとともに、導入教育の重要性について認識を高め、さらに国家試験結果を検証し、本学における学士教育の達成目標について教員の意識を高める議論を展開した。 ○教育改善につながるテーマを中心に昨年度より回数を増やして年16回開催した。そのうち5回は外部有識者による講演会を開催し、11回は歯学部長、病院長、大学院研究科長など学内の各部局長が担当し、それぞれの部局における教員への情報提供や課題解決に関するテーマで講演会を開催した。 ○百周年事業に関連して、学外より講師を招いた講演会をFDとして2回実施した。 ○FD参加者に対するアンケートの実施や個人業績評価におけるFD関連の参加記録などを活用し有効性を検証した。 ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率:平均80% ・アンケート調査評価結果:平均4.2点(満点5)	A	【高く評価する点】 ○学長が提示したミッションの重要性を現場の教職員が認識する場として、FDを活用することができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.10「FD」	8								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
24																
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項				評価	理由					
2	【教育力向上のための教育力評価システムの開発】 ①教員の授業力向上のために、授業評価や個人業績評価データを活用し、年次推移などを踏まえた分析を行い、講義だけでなく臨床実習も含めた形で、教員の教育力を多面的に評価できるシステムの開発を目指す。 ②学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員にフィードバックし、授業改善に役立てる。 ③教員に対して、組織的に教育活動の改善を求める。	2-1	1	【平成26年度の実施状況】 ○第1期中期計画中に行ってきた相対評価を改め、自己評価に加えて個人業績評価の自己評価書のポイント数を基に、分野長、学部長、学長による組織的な評価システムによって評価を行った。その結果をもとに自己評価書の評価項目について各教員にフィードバックするシステムを構築した。 ・個人業績評価のD評価、F評価になった教員については、学部長、講座長、分野長による面談を行い、意見聴取を行った。その結果を個人業績評価委員会にて学部長が報告し、業績改善に向けての組織的な対応について検討した。この作業を継続し、今後連続して低い評価の教員に対しては、大学として組織的に対応することとした。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に通知し、授業改善を促した。 ○平成25年度において改善を促した教員について、授業評価の改善が認められたかどうかを検証したところ、多くは改善が認められていた。また、若干名の改善の兆しが認められない教員については、委員会において問題点の洗い出しと今後の授業改善の方策について指導を行うという、個人業績評価委員会でバックデータをもとに審議する体制が整った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.9「学生による授業評価」	9			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)					
		【ウェイトの修正の有無】									
		年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト			業務実績評価書の記載内容		
		24									
		25									
26											
27											
28											
29											

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
4. 適性のある優秀な人材の確保 1. 高いモチベーションを有する人材を確保する入学試験方法の開発 2. 高校訪問やオープンキャンパスなどによる充実した広報活動の展開 3. 新たな高大連携事業の展開	1【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 ①アドミッションポリシーという視点で個別入試およびAO入試結果を検証する。 ②平成21年度告示高等学校学習指導要領に基づく大学入試センター試験改訂に対応する。 ○達成目標 ・AO入試の志願倍率および辞退率 ・一般入試の志願倍率、辞退率 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 4.5倍 ・辞退率 5% (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 2.7倍 ・辞退率 10%	1-1【平成26年度計画】 ○新たなセンター試験の導入を考慮し、入試の結果を引き続き検証する。 ・歯科医師としての適性という視点から、AO入試については、個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を分析し、評価する。 ・口腔保健学科のAO入試について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を分析し、検証する。 ○平成27年度入試における配点や個別入試科目等の改訂内容について、入試委員会の議論を踏まえ、すみやかに受験生にホームページの掲載等により周知する。 ○達成目標 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 4.5倍 ・辞退率 5% (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 2.7倍 ・辞退率 10%	1	【平成26年度の実施状況】 ○本年度の入試の結果を検証した。 ・AO入試については、入試委員会において、入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を調べ、歯科医師としての適性という視点で調査した。その結果、歯学科、口腔保健学科ともに現在行っている個別面談および集団討論の方法を改善する必要があるものの、基本的にAO入試に大きな問題はなく、歯科医師、歯科衛生士に適した人材を養成するという観点で、AO入試は継続すべきという結論が出された。 ○平成27年度大学入試センター試験の改訂、新指導要領での履修学生への入試への対応として、今年度から新たに理科総合問題の導入を決定し、ホームページへの掲載や実施要領等で周知した上で実施した。 ○目標実績 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 5.24倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 5.59倍 ・辞退率 11%(79名中9名辞退) (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 4.00倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 1.77倍 ・辞退率 18%(22名中4名辞退)	A	【高く評価する点】 ○平成24年度から、入試については、組織的対応を取り、入試科目の変更という大きな改編を行ったが、少子化の中、歯学部を有する29大学の中でも、高い志願倍率を維持することができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学者選抜試験」	10								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
										評価	ウェイト	評価	ウェイト			
									24							
									25							
									26							
									27							
28																
29																

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
3	【高大連携の実施】 ①高校との連携を深め、組織的に模擬講義を企画運営する。 ②高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会の実施等を行う。 ○達成目標 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート :実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上 ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート :実施回数	3-1	1	【平成26年度の実施状況】 ○高校での模擬講義を実施したところ良好評価は88%であったが、一方で内容が専門的すぎる等の意見も見られた。その結果を踏まえて、講演を行う教員に模擬講義の趣旨を周知徹底し、講義内容の改善を求めた。 ○高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会をオープンキャンパス開催時に実施した。活発な質疑応答や施設見学を通じて、歯学部教育と歯科医療界の実態を理解してもらうことができ、優秀な受験生の確保につながる取組みと判断した。 ○明治学園中学高等学校において、昨年度に続き、高校1年生6名を対象として、「歯科疫学実習」の授業を全20回提供した。疫学研究、データ解析の学習を通じて、学生の批判的思考能力の向上につながったとの評価を得た。 ○広報活動の充実に向けて作成した大学紹介ビデオを、大学説明という観点で活用した。 ○目標実績 ・模擬講座 :実施回数 5回 参加学生数 178人 アンケート良好評価 91% ・大学施設見学会 :実施回数 1回 参加教諭数 14人 アンケート良好評価 100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5「出前講座」	12		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	【就職支援の充実】 ①就職支援体制を整備し、入学時からキャリアデザインを支援する取り組みを行う。 ②口腔保健学科では、歯科衛生士としての位置付けにとどまらず、口腔保健活動の新たな担い手として就労できるように幅広い就職先を開拓する。 ③学生に対し、就職情報獲得のためのセミナーを開催し、就職支援を推進する。 ○達成目標 ・(歯学科)歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科)就職率:100% ・訪問先の企業・病院・施設でのアンケート調査:良好評価60%以上	2-1	1	【平成26年度の実施状況】 ○口腔保健学科において組織化した就職支援活動を充実させた。 ・「就職支援会議」の指示のもと、個別事例に対処する「就職支援実施会議」を活用し、組織的就職支援体制をとり、今年度も就職率100%を達成できた。 ・教職員の就職支援体制として、「キャリアカウンセラー資格」の取得支援を引き続き行った。 ・「求人者」、「求職者」情報のデータベース化に取り組み、求人情報の閲覧システムおよび就職支援全般においてITを活用したシステム運用を行った。システム運用に関する検証を行ったところ、求人情報は100件を超え学生の7割以上がこのシステムを使用して就職情報を得ていることが明らかとなった。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」を開催するとともに、就職支援のためのセミナーを頻繁に実施し、充実を図った。 ○新たな就職先として介護保健施設を考慮しており、関連企業との連携による寄附講座の開設に向けて活動を開始した。 ○目標実績 ・歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科)就職率:100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.18「就職状況」	14
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
	<p>2【研究の事後評価システムの充実】</p> <p>①研究活動の事後評価システムを適正化し、各研究者の研究活動を公表する。</p> <p>②研究開発成果などの知的財産を総合的かつ戦略的に管理・活用する知的財産部門を設置する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌70件(年間) 学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 25件(年間) 特許保有件数 : 3件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数) 	<p>2-1 【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究活動の評価・検証システムの運用方法を評価する。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究の成果をホームページ上で公表する。 ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織の必要性について、さらに実績値をもとに検討する。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌70件 学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 25件 特許保有件数 : 1件 	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究活動の評価・検証システムの運用方法を見直し、これまで不十分だった新たな評価項目を追加した。 ・これまでの研究業績を評価し、研究計画と研究実施能力に基づいて研究費を配分した。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究の成果をホームページ上で公表した。大学院生:1件、教員:1件 ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織として発明審査会(1件)を開催した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌70件 学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 25件 特許保有件数 : 3件 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.20「論文等の実績」	17								
									(評価委員会)							
									【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
										評価	ウェイト	評価	ウェイト			
									24							
									25							
									26							
27																
28																
29																

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
	3【外部大型研究資金の獲得】 ①大学として、大型外部資金獲得のために積極的な活動を行う。 ○達成目標 ・科学研究費：60件(年間) ・委託研究費・共同研究費：60件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金：60件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：1件(第2期中期計画期間中)	3-1【平成26年度計画】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として継続的に歯工学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○大学組織としての外部大型資金の獲得に向け、引き続き検討する。 ○達成目標 ・科学研究費：60件 ・委託研究費・共同研究費：10件 ・奨学寄付金：10件	2	【平成26年度の実施状況】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指し、科研費の採択件数は目標を上回った。 ・医歯工学連携で「次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム」を獲得した。 ○大学組織としての外部大型資金の獲得を目指し、関係機関との連携に向けた協議を行い、平成27年度申請することとした。 ○目標実績 ・科学研究費：99件 ・委託研究費・共同研究費：9件 ・奨学寄付金：17件 ・研究助成：2件	A	【高く評価する点】 ○平成26年度の科学研究費の採択率が全国6位(採択率:43.3%)となった。 ○医歯工学連携で獲得した文部科学省の研究助成を有効活用した。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	18		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】								
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
			評価	ウェイト	評価	ウェイト				
		24								
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
	4【産学官連携の推進】 ①一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を活かした連携を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携件数：40件(第2期中期計画期間中) ・特許出願件数：10件(第2期中期計画期間中)	4-1【平成26年度計画】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進する。 ○歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携数：5件 ・特許出願件数：2件	1	【平成26年度の実施状況】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進することを目的に、文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトにおいて、特別講演を4件開催した。 ○歯工学連携を医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進する事業として、歯工学連携国際シンポジウムを2件、特別講演を4件開催した。 ・医歯工学連携で「次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム」を獲得した。 ○目標実績 ・産学官連携数：9件 ・特許出願件数：1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21「産学官連携」	19								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価評価	評価委員会ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
									24							
									25							
									26							
									27							
									28							
29																
		ウェイト総計	26年度 5				項目数計	26年度 4								
【ウェイト付けの理由】(年度計画) 「2-1-3-1」大学としてのプレゼンスを高め、新たな大型外部資金の獲得を図る。																
研究に関する特記事項(平成26年度) 従来の分野(教室)単位の研究スタイルから脱却し、大学内はもとより、学外との連携研究が増加したことで、科学研究費採択率等の向上につながった。このことは、大学が大型外部資金を得るなど、学外に向けてアピールすることを推進してきたことによるものと考えている。																
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】													

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
	2【他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信】 ①県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。 ②市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画以上 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	2-1【平成26年度計画】 ○三大学連携による地域貢献活動の実施を目指す。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業を継続する。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等を情報発信する。 ・医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催する。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を実施する。 ・「福岡県歯科口腔保健の推進に関する条例」を支える研究事業を立ち上げる。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	1	【平成26年度の実施状況】 ○三大学連携による地域貢献活動を実施した。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業として公開講座を開催した。平成26年度は、本学主催で「食べる・噛む・生きる～変わりゆく家族のかたちと食育」と題した講座を開催し、100名を超える多くの参加者を得た。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等の情報発信を行った。 ・本学主催で、医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催した。 ・医歯工連携の成果を発信する市民公開シンポジウム「健康長寿社会を目指して」を初めて企画し、地域住民から高い支持を得た。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を実施した。 ・学長重点研究費を活用して、「福岡県歯科口腔保健の推進に関する条例」を支える研究を支援した。 ○目標実績 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数9回/年 受講者数72人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4.8(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」 No.23「公開講座」	21		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウエイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウエイト							評価	ウエイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項				評価	理由												
3	【アジアを軸とした海外との連携促進】 ①アジア諸国から留学生を積極的に受け入れる体制を強化する。 ②海外大学との学術交流を推進する。 ③ネパールやベトナムを中心とした歯科保健活動を推進する。 ○達成目標 ・留学生数：5人(第2期中期計画期間中) ・海外大学との学術交流件数：5件(第2期中期計画期間中)	3-1	1	【平成26年度の実施状況】 ○留学生の積極的な受け入れに向けた活動を行った ・英語教材の開発などを進め、大学院のシラバスでは、一部学科目において英語による表記を行うとともに、英語による受講を可能にした。 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・ミャンマー、香港、台湾、フィンランド、カナダ、タイ、インドの大学との協定書に基づき、学術交流を開始した。(7ヶ国9大学と連携) ・学生の短期海外派遣プログラムを構築し、平成26年度はトライアルとして5名の学生をタイと台湾に派遣した。 ・海外研究者との連携を図るため、本学主催で国際シンポジウム(ASIA - PACIFIC CONFERENCE)を昨年度に続いて開催し200名以上の参加があった。 ・学長がフィンランド、タイ、ミャンマー等の大学から客員教授として招聘され、各大学からの大学院生の受け入れを表明した。 ○海外での歯科保健活動を推進した。 ・ミャンマーにおける歯科保健活動について、現地で打ち合わせ等を実施し、保健省との連携について正式な協定を結ぶことができた。 ・前年度に引き続き、ベトナムでの歯科保健活動にチームを組んで派遣を行った。 ○目標実績 ・留学生数：1人 ・海外大学との学術交流件数：9件	A+	【高く評価する点】 ○海外大学との学術交流を推進し、海外9大学と協定書を交わし、学術交流を開始した。その活動を通じて、平成27年度から本学の大学院にタイのシーナカリンウィロート大学から1名受験することが決定した。 また、短期海外派遣プログラムトライアルに参加した5名の学生が、その成果を英語で国際シンポジウム(Asia-Pacific Conference)において発表した。 【実施(達成)できなかった点】	No.24「国際交流協定」 No.25「学生、教員の国際交流」	22										
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)					
									【ウエイトの修正の有無】									
									年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
									評価	評価	ウエイト						評価	ウエイト
									24									
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	4【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】 ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	4-1【平成26年度計画】 ○保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を継続する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ○公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施し、アンケート調査を分析する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	1	【平成26年度の実施状況】 ○大学近隣の保育園、幼稚園に訪問して分かりやすい講演とお口の相談を実施した。 ・到津保育園、天心幼稚園、八幡カトリック幼稚園、篠崎保育園、聖ヶ丘幼稚園の5施設で実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。(保護者168名、園児209名)。 ○小倉北区老人クラブ連合会と連携して、高齢者に対する口腔保健に関する講演と相談を実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。 ・足立老人クラブ連合会、清水校区老人クラブ連合会、南丘校区老人連合会、小倉米町老人連合会(参加者数:244名) ・苅田町の「すてきにマンデーサロン」(苅田町中央公民館)で口腔保健に関する講話を行った。(5回) ○目標実績 ・保育園、幼稚園等への訪問回数:5回、満足度4.7 ・公民館、老人クラブへの訪問回数:9回、満足度4.9	A	【高く評価する点】 ○地域住民に対する取り組みを積極的に進めることができ、そのアンケート結果として高い満足度を得ることができた。 【実施(達成)できなかった点】		23
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウエイトの修正の有無】								
					業務実績評価書の記載内容			
年度	自己評価	評価委員会						
評価	評価	ウエイト	評価	ウエイト				
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
	5【地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供】 ①地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。	5-1 【平成26年度計画】 ○地域で在宅療養を行っている高齢者に対して摂食嚥下リハビリテーション等の歯科保健医療サービスを実施し、その成果を検証する。 ・在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との連携を推進する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○地域の歯科医師会と連携して対応困難な在宅高齢者の紹介を受けるという形をとり、歯科医師会からの要請のもと活動を展開した。訪問診療による、摂食機能訓練の実施と食事形態の工夫により、経口摂取が可能となる症例が増えた。今後このような事例を拡大していく。 ・在宅高齢者が一時的に病院に入院した症例に対して、歯科訪問診療と同時に摂食機能療法(摂食嚥下リハビリテーション)を実施した。舌機能、咬合、義歯に関する歯科診療を並行して行った結果、摂食嚥下機能の改善ができた。今後このような事例を地域歯科医師会に知らせるシステムを構築する。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										
ウェイト総計			26年度	項目数計				26年度		
			5					5		
【ウェイト付けの理由】(年度計画)										
社会貢献に関する特記事項(平成26年度) 短期海外派遣プログラムを構築し、トライアルとして6名の学生を海外連携大学へ派遣した。										
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】							

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	2【プロパー職員の採用と専門性を持った大学職員の育成】 ①事務職や看護職等のプロパー職員を採用し、将来の大学運営を担う専門性を持った職員を育てる。 ②プロパー事務職員の人事評価制度を導入し、必要に応じて見直す。 ③人事評価に基づき採用計画の検証・見直しを行い、第3期中期計画期間に向けた事務局体制を検討する。	2-1【平成26年度計画】 ○専門性を有する職員を育成するため、競争試験等によりプロパー職員を採用し、その人事評価制度の導入を検討する。 ・採用計画に基づきプロパー職員を採用する。 ・プロパー事務職員については、三大学の共同採用試験を実施する。 ・プロパー事務職員の人事評価制度の導入については、引き続き三大学で検討する。 ・プロパー職員の勤務状況等を検証し、自律的の大学運営を推進する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○専門性を有する職員を育成するため、三大学の共同採用試験を実施し、プロパー事務職員2名を採用した。 ・平成25年度から競争試験を実施している附属病院の歯科衛生士については、職員1名を採用した。 ・人事評価制度の導入については、引き続き三大学で検討することとした。 ・大学運営の一翼を担うプロパー職員の育成を推進するため、平成27年度実施に向けて、新たな職の設置や給与制度の見直し検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		26
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
	評価	ウェイト	評価	ウェイト				
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
	3【SDの実施や専門研修等への派遣、キャリア開発支援等を軸とした事務局職員の資質・能力の向上】 ①福岡県の公立大学の職員としてふさわしい知識や資質を身に付けさせるため、事務局職員を対象としたSDを検討し実施する。 ②大学運営のスペシャリストとして育成するため、プロパー職員を公立大学協会等が主催する外部セミナーや専門研修へ派遣する。 ③事務局職員の自律的なキャリア開発支援として、自己啓発や通信教育などに対する支援を検討し実施する。 ④より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討し実施する。	3-1【平成26年度計画】 ○プロパー職員の採用を機に、事務局職員の資質・能力の向上に取り組む。 ・事務局職員のSDを検証する。 ・福岡県職員研修所と引き続き研修委託契約を締結し、プロパー職員を各種研修に受講させる。また、公立大学協会が主催するセミナーや専門研修も受講させる。 ・職員が自主的・自発的に通信教育等を受講する場合は、経費の一部を助成する。 ・県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化について引き続き検討する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○事務局職員の資質・能力の向上、人材育成を図るため、SDの実施や研修機会の確保・提供等に努めた。 ・事務局職員のSDとして、大学法人化の経緯や第2期中期計画における実施状況等について、オリエンテーションを実施した。加えて、理事長および副理事長によるマネジメントにかかる研修もSDとして実施した。 ・プロパー職員の研修として、公立大学協会主催のセミナーや県職員研修所の新採職員研修、専門研修等に積極的に参加させた。 ・北九州市立大学が主催した市内四大学合同による職員研修(試行)に職員を参加させた。 ・自己啓発意識の高揚および資質向上のため、受講料の一部を助成し、通信研修を受講させた。 ・法人職員採用試験を三大学合同で取り組むことにより、効率的・効果的な事務処理を図ることができた。 ・県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化についての現状認識と課題について意識の共有を図るとともに、今後の進め方について協議した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2. 安全管理体制の整備・充実 1. 戦略的・自律的・大学の運営を支える安全管理体制の充実 2. 安心・安全の医療の提供	1【情報ネットワークや情報セキュリティの強化による情報マネジメントシステムの拡充】 ①情報セキュリティポリシーを策定する。 ②情報セキュリティの検証、教職員に対する広報・研修を行い、情報マネジメントの運用体制の充実を図る。	1-1	【平成26年度計画】 ○情報セキュリティポリシーの適切な運用を図るとともに、内容を検証する。 ○情報セキュリティポリシーについて教職員への周知を図る。	1 【平成26年度の実施状況】 ○副理事長をCIOとして配置し、情報セキュリティポリシーの運用・検証を充実した。 ・情報セキュリティポリシーを運用していく上で、具体的事例ごとに検証を行った。現状として規定上の不具合は認められなかった。 ○情報セキュリティポリシーについて、周知に努めた。 ・学内ホームページに関連規程等をアップするとともに、体制図や階層ごとの権限・責任等一覧表等も併せて掲載した。 ・情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ・事務局における情報の円滑な管理・運用のため、CIOのもと情報適正管理委員会を開催した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		28	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
	<p>2【安心・安全の医療を提供するための体制の整備】</p> <p>①附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ②診療情報管理体制を充実する。 ③医療情報システムを充実する。 ④医療安全に関する検証・対策を強化する。 ⑤医療従事者の技術向上等に向けた研修体制を拡充する。</p> <p>○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回</p>	2-1	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を引き続き策定し、実施した。 ・診療機器の安全管理体制について、他の歯科大学病院を参考とした体制改善の検討を開始した。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた検討を継続して行った。 ・リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室および医療情報管理室を設置した。 ・院内感染対策、医療事故防止および薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した検討を行った。未受講者への補講を行う等の工夫を行った結果、二回行った講習会の出席率は、85.7%、85.2%であった。</p> <p>○目標実績 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回実施</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		29	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
		24							
		25							
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
3. 教員個人業績評価の充実 1. 個人業績評価制度の適切な運用	1【個人業績評価制度の検証と適切な運用】 ①口腔保健学科教員に対応する個人業績評価制度を検討し、1学部2学科体制に適した運用方法を構築する。 ②個人業績評価に係る教員処遇方法を検証し、必要に応じて改善する。	1-1【平成26年度計画】 ○平成24年度に設定した「個人業績評価に関する実施基準」による評価を継続する。 ・自己評価実績報告書の付属書の内容を検討し、改善する。 ・平成25年度の評価、評価実施内容の検証を踏まえ、評価方法等の見直しを行う。	1	【平成26年度の実施状況】 ○評価システムのブラッシュアップを行った。 ・平成25年度の業績評価結果を踏まえ、評価の低い教員に対して、委員会活動を通じて、今後の研鑽を促した。 ・評価検討部会において、評価対象者からの意見を踏まえ、「自己評価実績報告書の付属書」の評価対象・項目の見直しを実施した。 ・評価検討部会において、評価項目等の見直しを行い、簡便かつ適正な評価項目に改めた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)														
		【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)						
		【ウェイトの修正の有無】														
		年度評価							自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
		24														
25																
26																
27																
28																
29																
4. 附属病院の業務改善 1. 新たな診療体制の確立 2. 地域歯科医療連携体制の整備 3. 療養担当規則の徹底等、より適切な保険診療の推進	1【診療科再編による診療体制の充実】 ①診療科再編の効果を検証し、先進医療の円滑な実施に資する診療体制を確保する。	1-1【平成26年度計画】 ○総合診療科において包括的歯科診療を実践し、教育するシステムを構築する。 ○学生の自験を病院体制としてサポートし、患者から学生診療に対する同意が得られやすいシステムを構築する。 ○新しい医事システムを有効活用し、診療科間の連携をスムーズにする。	1	【平成26年度の実施状況】 ○総合診療科において包括的歯科診療を実践し、臨床実習体制を大幅に改編した。 ・臨床教育の中で包括的歯科診療を基盤とする診療参加型臨床実習を実践するため学生専用の第2総合診療科を開設した。 ・第2総合診療科において、学生にそれぞれの担当患者を配当する担当患者制度を導入し、5年次から6年次にかけての臨床実習の全期間を通じて、学生が同一患者の一口腔単位での包括的歯科診療を実践できる教育システムを構築した。 ○学生の自験を病院体制としてサポートし、患者から学生診療に対する同意が得られやすいシステムの構築を行った。 ・第2総合診療科での学生の自験をサポートするとともに、患者に安心・安全な診療を提供するために、自験の指導を担当する専任の指導教員5名を第2総合診療科に配置した。 ・病院内の各所に、診療参加型の臨床実習の説明のためのポスターを掲示し、学生が指導教員の指示・指導の下、チームで診療を行うことを周知し、患者への理解を求めた。 ・紹介状がない新患者の最初の附属病院での窓口となる予診科にて、自験の対象となり得る患者に対して、担当教員が診療参加型臨床実習の説明を口頭で行った上、患者の自験への協力の意思の確認を同意書の署名を通して行い、事前に自験に協力頂ける患者の選別を行った。結果的に現状では、90%以上の患者に同意を得ることができた。 ○新しい医事システムを有効活用し、診療科間の連携の円滑化を図った。 ・新医事システムを活用し、患者情報の共有化を図るために、診療科間の患者紹介など患者情報の伝達の一部について、文書とは別に医事システムを通じて行った。	A	【高く評価する点】 ○卒業前の臨床教育を充実させるために、教育システムを再構築したことで、90%以上の患者から、臨床実習に対する同意書が得られた。また、文書だけでなく、新医事システムによる患者情報の共有化を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】		31								

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】						
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24						
		25						
		26						
		27						
		28						
		29						
2	【地域包括型歯科医療連携の機能の整備】 ①病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。	2-1	【平成26年度計画】 ○病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。 ○達成目標 ・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の実施(1回/年) ・開業医・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の開催(1回/年) ・厚生労働省指定の地域医療支援病院との医療連携を構築し、緊急時の医療体制を構築する(平成26年度内に2病院との医療連携を目標)	1	【平成26年度の実施状況】 ○地域包括型歯科医療体制を整備したことにより、紹介患者の情報が蓄積されるようになった。これにより、患者情報提供書を歯科医師会に配布することができるようになった。 ・県歯科医師会での講演活動(1回)および研修セミナー(平成27年3月1日)を開催した。 ・地方歯科医師会部会との意見交換会(田川支部、平成26年12月12日)を開催した。直方歯科医師会部会との意見交換会(平成26年7月12日)を行った。 ・医療連携病院(八幡製鉄病院、戸畑共立病院)との協定、診療支援病院としての登録をおこなった。小倉医療センター統括診療部長と医療連携について協議を行った。 ・病院歯科との連携を図るために、年4回意見交換会(平成26年6月11日、9月10日、12月10日、平成27年3月11日)を開催した。 ○目標実績 ・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の実施(3回/年) ・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の開催(4回/年) ・厚生労働省指定の地域医療支援病院との医療連携を構築し、緊急時の医療体制を構築する(2病院)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	32
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】						

中期計画		平成26年度計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項	年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト		評価	理由		
		24							
		25							
		26							
		27							
		28							
		29							
3	<p>【療養担当規則をベースとした保険診療の推進】</p> <p>①電子カルテシステムの検討状況を踏まえ、診療記録の記載を充実する。 ②保険診療の理解を深化させるための研修を実施する。 ③診療報酬請求業務を充実させる。</p> <p>○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回</p>	3-1	<p>【平成26年度計画】</p> <p>○療養担当規則をベースとした保険診療の推進を継続する。 ・医療部会において検証し、診療記録の記載の充実に向けた指導を行う。 ・医療部会において、診療報酬請求状況の精査を行いデータベース化する。データベースから問題点を抽出し、抽出された問題点を元に診療担当医への個別指導等の研修を実施する。 ・診療担当医への個別指導等の内容をまとめ、医療部会において検証した後、各診療科の医療部会員へ伝達し各診療科内で周知させる。</p> <p>○達成目標 保険診療業務に関する研修：年12回 (診療担当医への個別指導等の研修)</p>	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>○療養担当規則をベースとした保険診療の推進に努めた。 ・診療録の記載内容の適正化に向けて、医療部会において診療録と診療報酬請求書について精査を行った。不適切な記載に関しては、診療担当医に対して個別指導を行い、診療録記載に関する研修を毎月、年12回実施した。 ・医療部会から診療担当医への個別指導等の内容は、診療担当医の所属する診療科の歯科医師全員へ伝達研修を行い、即日その報告書を提出させた。 ・誤りの多い記載事例を明確にするため、平成26年度中に返戻あるいは査定された診療報酬請求書の内容をデータベース化した。</p> <p>○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		33
		(評価委員会)		【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)					
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】							
		24							
		25							
		26							
		27							
		28							
		29							
		ウエイト総計		26年度 9		項目数計		26年度 9	

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
【ウエイト付けの理由】(年度計画)								
業務運営に関する特記事項(平成26年度)								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】					

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。 附属病院については、教育研究機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を推進する。</p>
-----------------------	--

項目	実施事項	平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
					評価	理由											
1. 法人収入の確保 1. 外部資金の獲得	1 【外部研究資金等の獲得】 ①科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費に加え、大学として外部大型資金の確保を図る。 ○達成目標 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金の獲得件数及び金額 ・科学研究費 60件 100,000千円(年間) ・受託・共同研究費 60件 100,000千円(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 60件 50,000千円(第2期中期計画期間中)	1-1 【平成26年度計画】 ○個人研究費の獲得に努めるとともに、大学として組織的に外部資金の獲得を目指す。 ・個人研究費については、高水準を維持する。 ・外部資金についての情報収集を行い、獲得に向けた検討を組織的に行う。 ○達成目標 ・科学研究費 件数 60件 金額 100,000千円 ・受託・共同研究費 件数 10件 金額 15,000千円 ・奨学寄付金 件数 10件 金額 8,000千円	1	【平成26年度の実施状況】 ○外部資金獲得に積極的に取り組んだ結果、個人研究費については、高水準を維持することができた。大型資金については、関係機関との連携に向けた協議を行い、平成27年度申請する方向で準備を進めている。 ○目標実績 ・科学研究費 件数 99件 金額 160,712千円 ・受託・共同研究費 件数 9件 金額 9,252千円 ・奨学寄付金 件数 17件 金額 7,973千円	A	【高く評価する点】 ○個人研究費を高水準に維持することができ、さらに、今年度は採択率6位という高い数値を達成した。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	34									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウエイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
									評価	評価	ウエイト	評価	ウエイト				
									24								
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
2. 運営経費の抑制 1. 業務の電子化・システム化による事務の省力化、人件費の抑制 2. 事務局業務の外部委託による人件費の抑制	1【事務局業務の外部委託、電子決裁システム導入や業務のシステム化による事務の省力化・人件費の抑制】 ①事務局の定型的な業務である給与支給事務を外部委託し、職員の削減と人件費の抑制を図る。 ②電子決裁システムを導入し、事務の省力化・ペーパーレス化を進める。 ③大学全体のIT化の一環として可能な業務をシステム化し、事務の省力化と従事人員の削減を図る。	1-1【平成26年度計画】 ○電子決裁システムについては、県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化(三大学共通のシステム導入)を引き続き検討する。 ○法人業務における情報管理システムの整備を図るとともに、事務の省力化について引き続き検討を行う。	1	【平成26年度の実施状況】 ○三大学共通のシステム導入を引き続き検討した。 ・県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化(三大学共通のシステム導入)に関する現状認識と課題について意識の共有を図るとともに、今後の進め方について協議した。 ○システムの整備による事務の省力化の可能性について検討した。 ・基幹システムの更新にあたり、事務の省力化の一助になる機能を付加するという視点もふまえて、仕様の検討を行った。 ・給与システム外部委託業者とシステムに関し、定期的な打合せと進捗管理を実施しながら、正確な給与支給と処理業務の効率化に務めた。また、平成27年度の導入に向けて、人事履歴管理を加味するシステム改良の検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		35									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価評価	ウェイト	評価委員会評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
3. 附属病院の収入の向上 1. 高次医療の提供 2. 先進医療及び自費診療の推進 3. 訪問歯科診療の推進	1【地域包括型歯科診療連携体制に基づいた高次医療の提供による収入増】 ①地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ○達成目標 ・かかりつけ歯科医等との地域連携パスの策定	1-1【平成26年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期医科歯科連携の構築のための地域がん拠点病院、地域歯科医師会、九州歯科大学附属病院との連携を開始する。 ・地域医療支援病院等の医科病院との連携・登録化を推進し、患者急変時の医療連携体制の構築を推進する。 ・地域連携パスの情報提供書の改定を実施する。 ・病院ホームページの外来予約システムの流れを改善する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○地域医療機関との連携を充実させた。 ・紹介患者データベースの保存が可能となり、このデータベースをもとに紹介診療機関に積極的に患者紹介の依頼ができるようになった。 ・紹介元情報を記載した患者情報提供書を歯科診療機関へ提供した。 ・地域の拠点病院である八幡製鉄病院およびがん拠点病院としての戸畑共立病院との間で医療連携が構築された。 ・小倉医療センター小児科(統括診療部長)との医療連携の協議を開始した。 ・医療連携パスの一部を変更し、地域の医療機関から紹介しやすい方法に改善できた。 ・病院ホームページの受診・紹介患者の流れ(外来予約システム)をリニューアルし、よりわかる形に変更した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		36									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								

中期計画		平成26年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項	評価	理由						
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
		24							
		25							
		26							
		27							
		28							
		29							
	2【先進医療及び自費診療の積極的推進による収入増】 ①先進医療の届出を積極的に進め、診療報酬等の収入増を図る。 ②地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進し、収入増を図る。 ○達成目標 ・先進医療の届出件数：第2期中期計画期間中を通じて2件(継続分1件+新規分1件)	2-1【平成26年度計画】 ○先進医療の届出を積極的に進める。 ○地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進する。 ・自費診療の実施件数、実施額等が対前年度比プラスとなるよう自費診療の一層の推進を行う。 ○達成目標 ・先進医療の届出件数：1件を継続。新規1件の申請に向けての症例数の積み上げ	1	【平成26年度の実施状況】 ○先進医療の届出を積極的に進め、一定の成果が得られた。 ・”歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法”を継続申請した。 ・”金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンをを用いたミニユニットブリッジ治療”ならびに”有床義歯補綴治療における総合的・咀嚼機能検査”は有効症例数に達したので、次年度申請する予定である。 ○高度な医療を提供する自費診療を推進する。 ・自費診療収入は昨年より2,270万円減少したが、保険収入が増加してトータルとして収支改善につながった。原因としては矯正歯科医の定年退職に伴う臨床力の高い矯正歯科医の不足が考えられた。そこで、適正な選考をすみやかに進め、平成26年12月教授の採用を決定した。また、慢性疼痛患者に対するケタミン療法を導入し、自費診療の増加を図った。 ○目標実績 ・先進医療の継続1件。新規2件の症例数達成。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
		24							
		25							
		26							
		27							
		28							
		29							

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	3【訪問歯科診療の促進による収入増】 ①歯科診療所に対応が困難な患者に対し社会的要請の高まる訪問歯科診療を促進する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数：24回/年	3-1【平成26年度計画】 ○歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療および訪問口腔衛生指導の実施状況と課題について検証する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 24回以上/年	1	【平成26年度の実施状況】 ○訪問歯科診療の課題を検証し、以下のような改善を図った。 ・介護病棟を有する病院の入院患者のうち、歯科診療所に対応が困難な高齢患者および認知症患者に対して、歯科訪問診療を117回実施した。歯科衛生士による訪問口腔衛生指導については、58回実施した。 ・課題として、歯科診療所および歯科医師会側からの難症例の依頼ということが前提となっているが、今後さらに綿密な連携を図って、地域住民のためという視点で改善していく。 ○目標実績 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 175回/年	A	【高く評価する点】 ○歯科医師および歯科衛生士の体制を工夫したことで、近隣の医療機関への訪問診療および訪問口腔衛生指導の回数を増加することができた。 【実施(達成)できなかった点】		38
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度					業務実績評価書の記載内容			
評価		自己評価		評価委員会				
	評価	ウェイト	評価	ウェイト				
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
ウェイト総計			26年度	項目数計				26年度
			5					5
【ウェイト付けの理由】(年度計画)								
財務に関する特記事項(平成26年度)								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】					

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2. 全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージの確立 1. 教育研究活動等の積極的な情報発信 2. 高校生向けの広報誌の発行及びITを活用した授業配信の実施 3. 百周年記念事業の活用	1【教育・研究活動情報及び研究実績の学外への積極的な発信】 ①大学の教育方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を広く学外に発信する。 ②本学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開し、外に開かれた大学イメージを醸成する。 ③大学の成果をまとめた広報冊子を作り公開するほか、大学案内を刷新する。 ④教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを充実する。	1-1【平成26年度計画】 ○大学の教育方針や教育研究活動を学外へ発信する。 ・アドミッションポリシーやカリキュラムポリシー等の教育方針をホームページや大学案内等の広報誌で継続して積極的に発信する。 ・特色ある授業や研究活動をホームページやポスター、講演会などで外部に公開するとともに、評価システムを構築する。 ・大学の業績等を高校生ほか外部に発信する広報冊子及び大学案内の刷新内容について検証する。 ・新たに作成したホームページを精査し、教育研究活動情報を適切に更新する。	1	【平成26年度の実施状況】 ○積極的な広報活動を展開した。 ・リニューアルしたホームページに、「教育情報の公表」のページを作成し、大学の理念、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーのほか教育研究活動情報を積極的に配信するとともに、大学案内、募集要項、大学自己評価部会だより等にも同様の情報を記載し、開示性の高いものにした。 ・特色ある授業や研究活動について、ホームページや大学案内で公表するとともに、教育学会等の学術大会においてポスターや講演により全国レベルで発信した。発信内容の評価については、次年度からは、聞き取り調査等をする予定である。 ・大学の業績等については、新たなホームページ内の各分野の紹介の中で公表することとした。また、高校生ほか外部に発信する大学の業績についても検証し最新年度のものに更新している。 ・リニューアルしたホームページは企画広報班を中心に常時精査し、随時教育活動情報を更新している。	A	【高く評価する点】 ○今年度、財政状況が厳しい中、ホームページのリニューアルを行い、全国に公立大学九州歯科大学の歯科医療に対する情熱を発信した。 【実施(達成)できなかった点】		40								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
									24							
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【百周年記念事業を活用した大学情報の発信】 ①広報誌、大学案内及びホームページ等すべての広報媒体を活用し、創立百周年を情報発信する。 ②大学の主要事業について、可能なものは「百周年記念事業」を前面に出して実施する。 ③百周年記念の一環として行う各種事業や新たに作成する記念誌等において大学情報を広く発信する。	2-1	2	【平成26年度の実施状況】 ○平成26年度百周年事業を大学広報活動として十分に活用した。 ・5月10日に開催された記念式典は、文部科学副大臣、福岡県知事、福岡県議会議員、北九州市長、厚生労働省医政局長、公立大学協会長、日本歯科医師会長、日本歯科衛生士会長、県議会議員、タイ、ミャンマー、インド、香港、台湾、中国、フィンランドの海外連携校関係者、全国歯科大学長、歯学部長、関連大学長、関連企業等、および卒業生・在校生あわせて800名を超える参加のもと盛大に開催され、九州歯科大学の百年の歴史と今後の展開について広く伝えることができた。また、記念講演には、再生医療のトップランナーの1人である東京女子医科大学特任教授の岡野光夫氏を迎え、「細胞シート再生医療による医療革新への挑戦」と題する講演をお願いした。さらに祝賀会は総勢1,000名を超える参加があり、多くの方々に本学のブランドイメージを周知する絶好の機会となった。 ・5月11日、海外連携大学招待者と全国の歯学部長、学長が集い、歯科医学教育に関する国際会議を開催し、「日本の歯学部卒業生が備えるべきコンピテンシー」について、活発な意見交換を行い、後日、論文として発表した。 ・当日の一連の行事については、新聞各社、テレビ局等の協力もあり、全国的に本学をアピールすることができた。 ・年末には「九州歯科大学百年史」を大学紹介DVDと共に発刊し、国内の主要機関ならびに全国の卒業生ならびに送付することにより、本学の存在を高めた。 ・9月13日(土)にTKP小倉シティセンター6階KOKURAホールにおいて、市民公開シンポジウム「健康長寿社会を目指して」、11月12日(水)に福岡県立3大学連携県民公開講座「食べる・噛む・生きる～変わりゆく家族のかたちと食育～」、11月15日(土)、16日(日)に西日本総合展示場新館(AIMビル)において北九州市内4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、本学)連携による、各大学の特色を生かした一般市民向けの公開講座を開催し、百周年を迎えた本学の今後の展開について情報提供を行った。 ・学術交流締結を行ったアジアおよび欧米の大学のうち、台湾とタイの2校についてトライアルという形で教員ならびに学生を短期派遣し、次年度からの本実施に向けた取り組みを行う。	A+	【高く評価する点】 ○国内外に向けて、多くの情報を発信し、歯科医学教育のフロントランナーとしての位置付けを確固たるものとした。 【実施(達成)できなかった点】		41	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
		26							
		27							
		28							
29									
ウェイト総計			26年度 4	項目数計		26年度 3			

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
【ウェイト付けの理由】(年度計画)								
【ウェイト付けの理由】 「6-2-2-1」本学が創立百周年を迎える平成26年度は、全国唯一の公立歯科大学としての実績や教育研究活動の業績等を外部に発信する絶好の機会であることから、平成26年度の実績は極めて重要である。								
評価及び情報公開に関する特記事項(平成26年度)								
教職員が一丸となったことで、創立百周年事業を成功裏に終えることができた。また、百周年事業を機会に、様々な形で情報発信を行うことができた。								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】					

特記事項(自由記載)

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれず、各大学が特徴として打ち出している重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項を記載してください。
 なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項	関連する通し番号
<p>○九州歯科大学創立百周年関連事業 九州歯科大学は平成26年度に創立百周年を迎えた。平成24年度から創立百周年に向けた公開講座等さまざまなイベントを開催し、集大成となる今年度は創立記念式典や記念講演会、教育国際会議などのイベントを開催した。記念式典では、文部科学副大臣、福岡県知事、北九州市長など行政関係者のほか、歯科医学関係者、海外連携校関係者、本学出身者など、総勢800名を超える参加があり、九州歯科大学の百年の歴史並びにこれからの展開について広く伝えることができた。これら、創立百周年事業を機会に、新聞やテレビ等のメディアを通じて、広く九州歯科大学の情報を発信し、ブランドイメージの周知を行うことができた。また、九州歯科大学創立百周年記念事業募金の残金を基に、九州歯科大学基金を設立した。これは、本学の教育研究目標である自立的・戦略的な「国際的に貢献する歯科医療人の育成」を促進するために、今後本学および海外留学生の研修支援、本学大学院に入学する留学生の生活支援、学校教育のために海外研究者・臨床医の招聘、学生の国際的歯科保健活動への参加に対する援助等に使用される予定である。</p>	22,40,41
<p>○、(株)ウチヤマホールディングス、(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)との連携協定 産学連携の分野においては、(株)ウチヤマホールディングス、(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)と本学との三者において、医療・介護分野における協定を締結し、研究成果の社会活用を強化するとともに、先端的かつ広い視野を有する人材を育成、および新規技術の創出を目指して、連携・協力を行っていくことを合意した。今後はこの協定を活かし、(株)ウチヤマホールディングスの介護施設における口腔ケアサービスの向上を図っていくとともに、介護現場での実習を通しての優秀な歯科医師および歯科衛生士の養成や卒業生の活躍の場の拡張、医療機器の開発の推進等の研究を展開する。平成26年度においては、(株)ウチヤマホールディングスが運営している介護施設へ本学教員を派遣し、口腔ケア事業を通じて、地域高齢者のQOL(生活の質)の向上につなげる活動を行った。一方、連携協定締結後、3者間で協議し、平成27年度からは(株)ウチヤマホールディングスからの寄附金による寄附講座を開設し、高齢者の口腔支援に向けた取り組みを充実させていく予定である。</p>	2,14,19,24
(評価委員会)	

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		費用の部	3,451	3,444	▲ 7	
		経常費用	3,451	3,442	▲ 9	
		業務費	3,159	3,108	▲ 50	
		教育研究経費	426	408	▲ 18	
		診療経費	651	687	35	
		受託研究費等	18	6	▲ 11	
		人件費	2,062	2,006	▲ 56	
		一般管理費	292	330	38	
		(減価償却費 再掲)	(190)	(178)	(▲ 11)	
		財務費用	0	2	2	
		雑損	—	0	0	
		臨時損失	—	1	1	
		収益の部	3,444	3,496	51	
		経常収益	3,444	3,494	49	
		運営費交付金収益	1,554	1,628	73	
		授業料収益	399	398	▲ 1	
		入学金収益	62	65	2	
		検定料収益	10	10	▲ 0	
		附属病院収益	1,057	1,053	▲ 3	
		受託研究等収益	14	7	▲ 6	
		補助金等収益	161	86	▲ 74	
		寄附金収益	12	72	59	
		資産見返運営費交付金等戻入	10	8	▲ 1	
		資産見返補助金等戻入	83	78	▲ 5	
		資産見返寄附金戻入	9	11	1	
		資産見返物品受贈額戻入	12	13	1	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	54	58	3	
		臨時利益	—	2	2	
		当期純利益	▲ 7	52	59	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	7	—	▲ 7	
		当期総利益	—	52	52	

2. 資金計画予算		(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		資金支出	3,308	3,311	3
		業務活動による支出	3,261	3,236	▲ 24
		投資活動による支出	18	47	28
		財務活動による支出	29	27	▲ 1
		資金収入	3,341	3,380	38
		業務活動による収入	3,341	3,379	38
		運営費交付金収入	1,567	1,598	30
		授業料収入	399	389	▲ 10
		入学金収入	62	65	2
		検定料収入	10	10	▲ 0
		附属病院収入	1,057	1,054	▲ 2
		受託研究等収入	14	10	▲ 4
		補助金等収入	161	127	▲ 33
		寄附金収入	12	64	51
		その他の収入	54	59	4
		投資活動による収入	0	0	▲ 0
		財務活動による収入	—	—	—
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	該当なし		—	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし		—	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	該当なし		—	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画 なし 2 その他法人の業務に関し必要な事項 なし	該当なし		—	